

「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。掲載料は無料です。



2 FEB

令和7年度れきはく講座
「博物館のウラ側大公開！
～文化財を守る保存科学の現場～」

講 師 森谷朱氏（東北歴史博物館学芸員）

場 所 東北歴史博物館 3階講堂 定員 280名（先着）

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

2月28日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込

3 MAR

公開講座
「スポーツにおけるコミュニケーション」

講 師 黒澤尚氏（仙台大学准教授） ※申込締切：2/28（土）

場 所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名

主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

3月7日(土)
9:00▶10:30
無料 要申込

公開講座
「遊びが育む子どもの未来
～幼少期の運動遊びの考え方～」

講 師 宮田洋之氏（仙台大学講師） ※申込締切：2/28（土）

場 所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名

主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

3月7日(土)
10:40▶12:10
無料 要申込

令和7年度れきはく講座
「多賀城の発掘調査成果に学ぶ」

講 師 廣谷和也氏（宮城県多賀城跡調査研究所）

場 所 東北歴史博物館 3階講堂 定員 280名（先着）

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

3月7日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込

令和7年度れきはく講座
「奥大道と中世の東北」

講 師 鈴木啓司氏（東北歴史博物館学芸員）

場 所 東北歴史博物館 3階講堂 定員 280名（先着）

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

3月14日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込

仙台文学館ゼミナール 2025：小池光短歌講座 第180回

講 師 小池光氏（歌人） ※申込締切：2/17（火）

場 所 仙台文学館講習室 定員 70名

主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

3月14日(土)
13:30▶15:40
有料 要申込

令和7年度 れきはく講座
「貨幣の誕生とその流通—近代以前のヨーロッパ・アジア世界を中心として—」

講 師 豊村幸宏氏（東北歴史博物館学芸員）

場 所 東北歴史博物館 3階講堂 定員 280名（先着）

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

3月21日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込

公開講座
「一流アスリートの超人技を科学（バイオメカニクス）で読み解き... 科学で勝つ！」

講 師 宮西智久氏（仙台大学教授） ※申込締切：3/21（土）

場 所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名

主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

3月28日(土)
10:40▶12:10
無料 要申込

せんだい文学塾 3月講座

講 師 佐伯一麦氏（野間賞作家、仙台文学館館長）

場 所 仙台文学館 定員 72名

主催者 せんだい文学塾 問合せ sendaibungakujuku@gmail.com

3月28日(土)
16:00▶18:00
有料 要申込

企画展「くらしの中の竹」講座②
「仙台地方における竹とくらし」

講 師 仙台市歴史民俗資料館学芸員 ※申込締切：4/1（水）必着

場 所 仙台市歴史民俗資料館 定員 20名

主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ folkmuse@deluxe.ocn.ne.jp

4月11日(土)
13:30▶15:00
無料(要力) 要申込

第72回

名著への旅



『日本に住んで世界のひと』

金井真紀 著
大和書房

（2022年11月30日初版発行）

2021年12月の在留外国人統計によると、日本に生きている外国人は276万635人。（2025年6月時点では395万6,619人）様々な事情により、この人数に含まれない人々を含めれば、もっと多くの方々が日本で暮らしている。そのなかのほんの一部の人々が、どんな理由で日本に暮らすことになったか、それぞれの国にはどんな文化があって日本とどう異なるのか、著者の金子さんが18組20名の方々と話を聞いた。愛らしいイラストも金子さんの手によるもの。中国、台湾、韓国など同じアジア以外にもコンゴにマケドニアなど、あまり身近でない国出身の方々の話を聞くことで、世界の広さを感じ、それと同時に、未知の世界がグッと近づいてくる感じがする。

ここ数年、未だかつてなく、他者や異文化を排除するような、不寛容で心無い言葉が街なかを飛び交うようになった。少し前まで、国際化、多様性と語られてきたものの風向きが、逆方向に吹き始めている。

偏見や差別はいつもある種の無知や無関心、我々の心の片隅に潜む「不安」から生み出される。震災後、他者との繋がりが助け合いによって、ここまで復興してきたものではなかったか？ 大きすぎる主語や断定的な言葉に惑わされそうになったら、一歩踏み留まって考えてみよう。私たちはもっと豊かに共生できるはず。（庄）

参加体験記募集中！

読者の皆様に参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈！ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント！

※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。「まなびのめ」編集部へはがき、FAX、E-mail、Web版投稿フォームよりお送りください。

第70号 まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第70号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1 リンを磁置させて耕地に施すことで肥料だけでなく様々な効果が期待できるものは？ 答え「炭 もしくは リン電置機」

Q.2 ササニシキの10アール当たりの収穫量はおよそ何kgですか？ 答え「約600kg」

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から抽選で3名様に図書カードが当たりますので、奮って応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

「氣」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先 /
問い合わせ先

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部

FAX 022-288-5551

TEL 022-288-5555

(FAXは24時間受付 電話受付時間10:00~16:00 土・日・祝日除く)

✉ manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第71号／発行日2026年1月5日
企画・編集 「まなびのめ」編集部／発行 笹氣出版印刷株式会社

オペレーター：寺田征也（明星大学） 協力：株式会社市瀬 有限会社阿部正志製本

©笹氣出版印刷株式会社 無断で複製、複製、転載することを禁じます。

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は、適切に管理されたFSC® 認証林およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。



ご自由にお持ち帰りください。

TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付
クイズあります
詳しくは中面へ

学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 第71号
2026.1

学びの庭におじゃまします シリーズ「東日本大震災」[15]
—建物—

長周期地震動から高層ビルを守るには



東北大学災害科学国際研究所 災害評価・低減研究部門 教授
(耐震工学・建築構造)

五十子 幸樹 先生

大川小が震災伝承の場であり続けるために



東北工業大学 建築学部・大学院工学研究科 教授
(建築デザイン・復興まちづくり・ランドスケープデザイン)

福屋 粧子 先生

- これからの主な「学び」イベント 39件 掲載!
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『日本に住んで世界のひと』 (金井真紀 著)

● Voice Park



JQA-EM4031

Web版 随時更新中! まなびのめ

https://manabinome.com/



発行 / 笹氣出版印刷株式会社

これからの主な 「学び」 イベント

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。
※ 無料(要力)は別途入場料等が必要。

詳細は Web 版に掲載しております。https://manabinome.com/

ここに掲載する情報は、主催者である各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合せ先へご確認ください。

予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

定期開催

トワイライトサロン
「土佐誠の宇宙が身近になる話」

講 師 土佐誠氏（仙台市天文台名誉台長）

場 所 仙台市天文台オープンスペース

主催者 仙台市天文台 問合せ TEL 022-391-1300

毎週土曜日
17:00▶17:45
無料 申込不要

開催中

企画展
「あの日から海辺と歩いた10年
—荒井駅から青葉山への軌跡」

※1/11(日)、2/11(水)は19:00まで開館 ※休館日：月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)

場 所 せんだい3.11メモリアル交流館 2F 展示室

主催者 せんだい3.11メモリアル交流館 問合せ TEL 022-390-9022

～2月15日(日)
10:00▶17:00
無料 申込不要

企画展
「母として、歌人として」

※休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

場 所 原阿佐緒記念館

主催者 原阿佐緒記念館 問合せ TEL 022-346-2925

～3月29日(日)
9:00▶16:00
有料 申込不要

企画展
「くらしの中の竹」

※入館は16:15まで。休館日：月曜日(祝日除く)、祝日の翌日、第4木曜日

場 所 仙台市歴史民俗資料館

主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956

～4月12日(日)
9:00▶16:45
有料 申込不要

展示

第14回企画展
「樺山祐和と描く一森と海の美術展」

※入館は16:30まで。休館日：月曜日(祝日除く)、月曜祝日の翌日。

場 所 石巻市博物館 企画展示室

主催者 石巻市博物館・武蔵野美術大学 問合せ TEL 0225-98-4831

1月10日(土)～3月15日(日)
9:00▶17:00
有料 申込不要

登米懐古館企画展
「日本の植物美と吉祥のかたち」(後期)

2/3(火)～2/5(木) 休館

場 所 登米懐古館

主催者 登米懐古館 問合せ TEL 0220-52-3578

1月15日(木)～3月1日(日)
9:00▶16:30
有料 申込不要

第111回企画展
「博物館からつながる 遺跡と人と自然」

※入館は16:15まで。休館日：月曜日(祝日除く)、祝日の翌日、第4木曜日

場 所 地底の森ミュージアム企画展示室

主催者 地底の森ミュージアム 問合せ TEL 022-246-9153

1月16日(金)～3月8日(日)
9:00▶16:45
有料 申込不要

大崎市・東北生活文化大学
連携協力事業「をだえのアニメ 2」

場 所 大崎市民ギャラリー緒絶の館

主催者 大崎市教育委員会 問合せ TEL 0229-21-1466

2月17日(火)～2月23日(日)
10:00▶16:00
無料 申込不要

講座仙台学 2026
『伊達治家記録』の史料性について

講 師 渡邊洋一氏（東北文化学園大学地域連携センター特任教授） 締切：1/17（土）

場 所 仙台市民活動サポートセンター6階セミナーホール 定員 50名（先着）

主催者 東北文化学園大学地域連携センター 問合せ TEL 022-233-3451

1月24日(土)
10:30▶12:00
無料 要申込

4 APR

長周期地震動から高層ビルを守るには

大規模建築物の構造設計を仕事に

私は企業で建物の構造設計に携わり、ドーム球場や高層ビルなどを手がけていました。その後研究者に転じ、現在は東日本大震災を受けて本学に設立された災害科学国際研究所にて、「地震工学研究分野」を担当しています。

父は自営でガラスや建具を扱う仕事をしており、幼い時に建築現場に連れられ、大工さんに遊んでもらった記憶があります。この父が絵を描くのが好きだったため、私も描くようになりました。子どもの時の夢は画家でしたが、高校では物理に目覚め、量子力学の初歩を学んで大いに魅了されます。

将来の進路を考えていた時に、画家や理論物理学者として生きていくことの厳しさを先生方や両親に諭され悩みました。そこで子どもの時に体験した建築現場の活気を思い出し、「建築ならデザインも力学も学べる」と建築学科に進学します。やがて力学を専門とするようになり、修士課程の修了後、建築設計会社に就職しました。

大阪に配属され、主に西日本の大規模な建築物の構造設計に携わりました。外観のデザインや間取りを考える意匠設計に対して、構造設計は力学的な観点から柱・梁などの材料や寸法を考えます。安全性、機能性、経済性などのバランスを取る必要がありますが、日本では何と言っても地震対策が重要です。

就職から3年が経とうという1995年1月17日、阪神淡

路大震災が発生します。多くの建物が倒壊し、火災も起きて6,000名以上の方が亡くなりました。私が住んでいた大阪市内の自宅マンションに被害はありませんでしたが、「自分が設計した建物はどうか」「今日はサッカースタジアムの屋根の設計について、専門家の先生方に説明する評価委員会の日なのに」と気が気ではありません。とにかく出社しようと家を出たところ、二駅歩いたところで電車が動き始め、会社も無事でした。予定されていた評価委員会の中止が決まり、会社に関わった建物や社員の安全確認が進むにつれて、次第に落ち着きを取り戻します。しかし「関西で大きい地震は起きない」と言われていたのがただの思い込みだったこと、そして自分が地震の被害について、教科書的な理解しかなかったことを思い知らされました。

1981年に建築基準法が改正されて耐震基準が引き上げられたのは、その3年前に発生し、6,000戸以上の家屋が全半壊した宮城県沖地震がきっかけです。その基準を守って私が構造設計をした建物は、実際に阪神淡路大震災でも大丈夫でした。しかし自分の仕事に自信を持つことができた一方で、改正前の法律の基準で建てられた建物の惨状を目の当たりにし、あらためて仕事の責任の重さと耐震研究の大切さを考えたのです。

「耐震」と「制振」と「免震」と

建物の耐震は、まず柱や梁を太くする、一体化する、部材を改良するなどして、構造体を頑丈にすることを考えます。さらには壁の耐力を高めたり、斜めに筋かいを入れたりすることで、地震の揺れに抵抗するわけです。

しかし中の人や物が転んだり、物が落ちたり倒れたりするのを防ぐとすれば、建物の揺れそのものを小さくしたり、揺れを早く収めたりする必要があります。また建物の高層化が進むにつれ、地震だけでなく、強風による振動も大きな課題になりました。私たち研究者はこうした振動を制御する技術を、構造体の耐震と区別して「制振」と表現します。

制振には、ダンパーと呼ばれるものが用いられます。これは急激な運動のエネルギーを吸収することに加えて、地震や強風が収まっても建物が揺れ続けるようなことがないようにする装置です。ダンパーは、実は自動車にも装着されています。地面の凹凸に合わせて車輪が上下しても、スプリングの伸縮とダンパーによる制御を組み合わせさせたサスペンションが、車体の安定を保っているのです。油の粘性を利用したオイルダンパーなどいくつかの種類があり、それらを組み合わせさせた装置も実用化されています。このダンパーを建物の構造体に設置することで、



東北大学災害科学国際研究所 災害評価・低減研究部門 教授
専門＝耐震工学・建築構造

五十子 幸樹 先生

〈プロフィール〉(いかご こうじゅ) 1967年滋賀県生まれ。京都大学工学部卒業。京都大学大学院工学研究科博士課程修了。博士(工学)。株式会社日建設勤務を経て、2008年、東北大学大学院工学研究科・工学部に准教授として着任。2013年より現職。著書に「耐震構造解析入門」、共著書に「建築物の変位制御設計 地震に対する免震・長周期建物の設計法」など。

懸賞

図書カードを
当てよう!

まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に
図書カード1000円分をプレゼント

Q.1 「免震」は今からどのくらい前から研究・実用化が進みましたか?

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。福屋靴子先生の記事もご覧ください。

応募
方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び
発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2026年3月10日 当日消印有効

振動を小さくしたり早く収めることができるのです。

構造体の耐震、制振に加えて、広い意味での耐震には「免震」も含まれます。これは建物の基礎の上に、ゴムシートと鋼板を交互に重ねた「積層ゴム」やダンパーなどを設置し、その上に構造体を造る仕組みです。地面が揺れても免震機構がそれを吸収・制御するため、構造体の揺れはとて小さくなります。50年ほど前から研究と実用化が進み、1994年には米国のノースリッジ地震で、翌年には兵庫県南部地震でその有効性が実証されました。今では病院や、避難所にもなる公共施設を中心に免震構造が多く取り入れられており、既往の建物を免震構造に改修する例も増えています。

ただ建物の免震化には、コストがかかるという現実があります。免震構造をうたうタワーマンションが次々と新築される一方で、古いビルが地震で倒壊する例が後を絶ちません。阪神淡路大震災の後、私は経験を自分の仕事に活かそうと、耐震技術についての学びを深めました。勤務しながら大学院で最先端の研究に携わったのち、ご縁を得て本学の工学研究科に勤務し、「長周期地震動」に挑むこととなります。

世界トップレベルの免震・制振装置を開発

高層ビルは、かつて地震には強いと考えられていました。地面が揺れてもそれが短い周期であれば、一般的に「高いほど大きく揺れる」ということはありません。しかし高層ビルはゆっくりした長周期の揺れには弱く、上層ほど大きく揺れます。しかもこうした揺れは遠くまで伝わるため、震度が小さいのに高層ビルだけ大きく揺れることがあるのです。従って現在の緊急地震速報では、震度とは別に「長周期地震動の階級」が発表されることがあります。

私は本学で、この長周期地震動の制御に有効なマスダンパーの研究・開発に取り組みました。これは、おもりをういて地震のエネルギーを吸収・制御する仕組みです。性能向上のためにおもりを重く大きくする方向性には限界があるため、水平運動を回転運動に変換することでこの問題の解決を目指しました。

困難はありましたが、計算と実験を重ね、実用的な装置の開発に成功します。同時期に研究を進めていた英国の著名大学が私達の後に類似論文を発表したことで、「日本の東北大学では既に実用段階まで研究が進んでいた」と国際的な注目を集めました。「世界地震工学会」公式ジャーナルの数千篇もの論文のうち、トップ10にランク入りした日本人研究者は私たちだけです。



この装置を、仙台に新築されるビルに設置する話が進んでいた2011年、3月11日に東日本大震災が発生します。私は東京で、日本建築学会の理事会に出席していました。震源地は東北という情報がテレビで流れ、津波の映像が映し出されて言葉を失います。仙台には単身赴任していて、大阪の自宅とは連絡がついて無事を確かめ合うことができたが、大学関係には電話がつながりません。新幹線も高速道路も使えず、この日は建築学会の会館に泊まり、翌日やむなく大阪に帰宅しました。

2週間ほどで東京・仙台間の高速バスが再開し、大学に向かいました。14階建ての研究棟は無事でした。事務方に戻ったことを告げに行くと、「先生が東京にいらしたことは知っていましたが、万が一に備えて研究室に入らせていただきました。ただ、ドアが内開きで開かなかったため、壁に穴をあけました」と言います。12階にある研究室に行くと、なるほど前室側の壁に大きな穴ができていました。中では壁に固定していた本棚が、その固定部材ごと壁を壊して倒れています。「ここにいたら死んでいたかも」と思ったほどのすさまじさでした。

当研究所が設立されて本務先となり、他分野の先生方との専門を超えたやり取りを通して、視野を広げられたのはありがたいことです。ダンパーの研究もさらに進展し、長短どちらの周期の地震動にも有効な装置の見通しもつきつつあります。

東日本大震災から15年になろうとしています。大学の研究所と聞くと縁遠く感じられるかもしれませんが、当研究所は市民への発信にも力を入れています。私たちの研究に関心をお寄せいただき、またその成果を皆さんの防災・減災活動に活かしていただけるよう願っております。

(取材=2025年11月14日/東北大学青葉山新キャンパス
災害科学国際研究所5階 小会議室4にて)

学びの庭に
おじゃまします

地震の教訓をいかに未来に残すか。まなびのめのように文字やデータで残すこともできますが、百聞は一見にしかず。福屋先生は被災後に学生さんたちと被災地でどのような活動を経て、津波の影響を受けた「大川小学校」を遺構として後世に残すという事業に携わられたのかでしょうか。

大川小が震災伝承の場であり続けるために

建築家による復興支援ネットワーク

子どものころから住宅の写真やスケッチが載った雑誌を見るのが好きでした。高校で化学の面白さを知り、大学では化学を学んで卒業しましたが、その過程で自分の発想を形にできる建築の魅力に改めて気付きます。建築学科に3年生から入り直し、さらに大学院に進んで、建築デザインを仕事にするようになりました。

最初に入った仕事場で「金沢 21 世紀美術館」などに関わらせていただいた後、自分ひとりの事務所を開設しました。あわせて大学で教育に携わる機会を得たところ、大きなやりがいを感じ、2010年に本学に採用していただきます。ずっと東京暮らしで、仙台へは「せんだいメディアテーク」の建設現場を見学しに来たことがあったくらいでしたが、家族との住まいや仕事場を東京に残したまま、仙台との二重生活が始まりました。

前任の先生から引き継いだ学生たちの卒業研究の指導も終え、ほっとしていた2011年3月9日、仙台の自室で地震に見舞われます。東京では経験したことのない大きな揺れに驚いたものの、特に被害はありませんでした。年度内の大学の用事は19日の卒業式だけだったので、翌日から東京の事務所で仕事をしていたところ、11日、仙台で2日前に遭遇したレベルの強い地震に見舞われます。事務所は無事だった上にテレビはなく、あれだけの災害が発生しているとは思っていませんでした。

帰宅してから事態の深刻さを知って、研究所所属の学生たちに電話をかけました。「学内にいましたがケガはありません」などの答えに一安心したものの、その後は学生たちの携帯電話が電池切れで、連絡がつかなくなってしまいます。仙台に戻る交通手段がない中、テレビとインターネットで情報収集を続けながら、「私にできることは？」と考え続けました。ようやく仙台に戻れたのは10日ほどが経ってからで、被災した現地の状況を目の当たりにして大きな衝撃を受けます。

建築関係の学会や業界はのちに復旧・復興に大きな役割を果たしましたが、予算や体制を整えて動き出すまでには、どうしても一定の時間がかかります。一方、建築家どうしの個人的なつながりから生まれた活動は立ち上がりが高く、状況の変化にも素早く対応しました。互いに安否を確認し合う中で、被災地の建築学生を支援しよう、被災者に我々の知識や技能を提供しよう、という話が形になっていきます。3月中には「東日本大震災における建築家による復興支援ネットワーク」、略称アー

キエイドが動き始め、私もその活動の一部を担うことになりました。

震災4カ月後に学生たちと牡鹿へ

アーキエイドではまず、実家や大学が被災した建築学生たちを東京の建築事務所などに短期インターンとして受け入れていただきました。また、やはり早期に始まったのが、被災前の地域を建築模型で再現する「失われた街」プロジェクトです。私たち建築家は構想を示すとき、図面だけでなく立体でも表現します。土地に起伏があればそれも含めて、どう造成してどのような建物を建てるのかを模型に作るのです。これを応用して、津波で失われてしまった沿岸地域を再現しました。仙台で震災前に教えていた、現在は神戸大学の槻橋修研究室を中心とした活動です。

縮尺は500分の1で、500m四方の模型をつなげます。私も研究室の学生たちと参加し、宮城・岩手・福島のいくつかの地域を担当しました。地図や衛星写真に基づいて、地形や住居に加えて、漁業倉庫や作業場、堤防などの港の施設、漁船などを手作業で形にしていきます。模型は被災地に持ち込んで、被災者の皆さんに昔の思い出を語っていただいたり、災害前の地域の風景を記録します。

私は震災の前まで、建築家として主に都市部の住宅や公共施設の設計に携わっていました。また建築物と周囲の環境を調和させつつ、新たな景観を創造するランドスケープは、私の主要な研究テーマです。しかし被災地を回る中で、「建築には何ができるのか」「真の再建・復旧・復興とは何か」などを、自ら問い直さざるを得ませんでした。

特に「浜」と呼ばれる沿岸の集落では、たびたび自分の価値観が揺さぶられる体験をしました。津波にさらわれて基礎だけを残した住居跡を前に茫然とし、家族を失った方々のお話に言葉を失う一方で、「浜ならではの豊かさ」に気付いていったからです。水揚げを競いつつも協力し合って生きてきた浜の人たちは、先人から受け継いだ海の恵みと文化を、被災しても守り続け、伝え続けようとしていました。

震災から4カ月後、アーキエイドから呼びかけた全国の15大学研究室が石巻市と連携して、牡鹿半島にある30すべての浜に一斉調査に入りました。復旧・復興に向けた、現地の要望をお聞きするのが主な目的です。住民の方々が仮設住宅へと移り、それまで避難所だった公共施設が利用できる時機を待って、4泊5日で行いました。建築家と学生のチームが徒歩で浜を

回り、土地勘を養いながら聞き取りを重ねます。真剣にメモを取る学生たちに、多くの方々が震災前の思い出、今の気持ち、浜の再建についての意見などを語っていただきました。学生たちはその結果を地図に書き込んで共有したり、高台への集落移転について具体的なプランを立てたりする中で、大きく成長することができたのです。

震災遺構大川小学校に込めた思い

大学で教育・研究に携わる身としても、そして建築家としても、私は震災とその後の活動から多くを学ぶことができました。2012年には共同で仙台に設計事務所を構え、東北の仕事を中心に取り組んでいます。同年にはアーキエイドの牡鹿調査で協力した建築家チームで応募し、岩手県釜石市が公募した災害復興公営住宅（半島部全浜）の基本計画と建築設計業務で最優秀賞に選ばれました。つながりを重視した平屋の戸建て住宅など、入居者本位の住まいが実現できたと思います。

アーキエイドは当初の予定通り、2016年をもって活動を終了しました。その後、熊本地震や能登半島地震でもそれぞれ建築家のネットワークが立ち上がり活動しており、アーキエイドの経験とつながりが生きていて感じています。

また「失われた街」プロジェクトは独立して、今も活動を続けています (<https://losthomes.jp/>)。私は石巻市大川地区の模型製作に携わり、これを機に2018年、児童74名・教員10名が亡くなった大川小学校を、震災遺構として残す事業に関わることになりました。

被災した建物を保存して公開することについては、様々な考えがあります。大川地区にも「残すことで震災を後世に伝えてほしい」という方もいれば、「見ると亡くなった家族を思い出して辛い」という方もおられました。しかし模型作りのために現地を訪ね、ご遺族をはじめとする関係者にお話をうかがった私は、「教訓を伝えるため大川小は震災遺構としてぜひ残すべきだ」と思いました。そしてのちに、「自分も記憶を残す形を工夫したい」とも。犠牲者が多かった大川地区では、ご遺体の捜索が続いたことや、大川小の児童のご遺族が市と県に賠償を求めた裁判が継続中だったことなどから、校舎を震災遺構として保存することが決まったのは2017年です。私たちは石巻市の調査・設計業務の公募に応じ、選んでいただきました。

私はまず、校舎を被災時の姿で残したいと考えました。中も見学できれば理想的でしたが、かなわなかったため、校舎内の写真などを展示する新設の「大川震災伝承館」は片流れの屋根

懸賞

図書カードを
当てよう!

まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に
図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 「失われた街」プロジェクトで作られた模型の縮尺は何分の1ですか。

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。五十子幸樹先生の記事もご覧ください。

応募
方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び
発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2026年3月10日 当日消印有効

下の天井の高い高窓のある空間が、現在は立ち入ることができない校舎2階の空間を想起させ、またランドスケープでは震災前の街並や子どもの逃げたルートを示しています。また大川小は、「震災を学ぶ場」であるだけでなく、多くの方が亡くなった「慰霊の場」であり、そして近隣の方々にとつての「地域を学ぶ場」でもあるべきです。私はこの3つの場を敷地内にゾーンとして設定するとともに、この場所に訪れる目的がお互いに違っても、それを認め合えるような動線を実現しようとしてきました。検討の結果、伝承館を3つのゾーンが交差する地点に設置し、建物から大きく張り出した屋根下の空間を設けることで、来訪の目的にかかわらず皆が自然に立ち寄れるようにしたのです。

震災遺構は2021年に完成しました。大川小の校歌には「歴史を刻む」と「未来をひらく」という言葉がありますが、私はこの二つを、震災遺構として形にこめられたと思っています。できれば大川小へは、インターネットでご確認の上、「大川伝承の会」の語り部の活動日にお訪ねください。過去にあった「他人ごと」ではなく、これから起きる「自分ごと」として震災を捉え直し、きっと具体的な行動に結びつけていただけるはず

(取材= 2025年11月19日/東北工業大学

八木山キャンパス6号館4階 福屋研究室学生室にて)



東北工業大学 建築学部・大学院工学研究科 教授
専門=建築デザイン・復興まちづくり・ランドスケープデザイン

福屋 粧子 先生

〈プロフィール〉(ふくや・しょうこ) 1971年東京都生まれ。東京大学工学部反応化学科・建築学科卒業。東京大学大学院 工学系研究科修了。修士(工学)。「妹島和世+西沢立衛 / SANAA」に勤務の後、2005年に福屋粧子建築設計事務所を、2012年に共同でAL建築設計事務所を設立。あわせて2006年より慶應義塾大学理工学部にて助手、助教を務め、2010年に東北工業大学工学部建築学科(当時)に講師として着任。准教授を経て、2022年より現職。建築家としての仕事に、石巻市震災遺構大川小学校、八木山ペニーランド・エントランスなど。共著書に「浜からはじめる復興計画 牡鹿・雄勝・長清水での試み」など。

Web版はより多くの情報を
随時更新しています。

詳細情報も

まなびのめ 検索

https://manabinome.com/

1 JAN

**令和7年度れきはく講座
「仙台藩校に描かれた絵画
ー建築と美術がつくりだす世界ー」** **1月24日(土)**
13:30▶15:00
無料 要申込

講 師 八島伸氏 (東北歴史博物館学芸員)

場 所 東北歴史博物館 3階講堂 **定員** 280名 (先着)

主催者 東北歴史博物館 **問合せ** TEL 022-368-0106

**第2回シュネーダーと学生たち：
宣教師と人格教育** **1月24日(土)**
14:00▶16:00
無料 要申込

講 師 藤野雄大氏 (東北学院大学総合人文学科准教授)

場 所 東北学院大学土樋キャンパス中央図書館5F視聴覚室 **定員** 40名

主催者 東北学院大学図書館・東北学院史資料センター **問合せ** TEL 022-264-6491

**令和7年度
「石巻防災・震災伝承のつどい」** **1月25日(日)**
10:15▶14:30
無料 申込不要

場 所 マルホンまきあーとテラス

主催者 石巻市震災伝承課 **問合せ** TEL 0225-95-1111

**令和7年度縄文の森講座第2回「貝塚か
ら見る縄文人の営みー南三陸町大久保貝
塚の発掘調査からー」(ハイブリッド)** **1月25日(日)**
13:30▶15:30
無料 要申込

講 師 梅川隆寛氏 (宮城県教育庁文化財課 技術主管) ※会場参加は申込不要。オンライン参加のみメールで要申込 (締切:1/18)

場 所 仙台市縄文の森広場体験活動室 **定員** 60名 (オンライン80名)

主催者 仙台市縄文の森広場 **問合せ** TEL 022-307-5665

**第9回 仙台講演会
「仙台から日本の未来へー未来を拓く生成
AIと半導体技術」(オンライン)** **1月29日(木)**
16:00▶17:05
無料 要申込

講 師 遠藤哲郎氏 (東北大学国際集積エレクトロニクス研究開発センター長) 他 ※申込締切:1/19(月)

場 所 オンライン開催 **定員** 150名

主催者 (公財) 仙台応用情報学研究振興財団 他 **問合せ** https://x.gd/VETHS

2 FEB

**3.11 学びなおし塾
「東日本大震災の防潮堤の復興と付近の
生活」** **2月 1日(日)**
11:00▶12:00
無料 申込不要

講 師 磯村和樹氏 (東北学院大学教養教育センター助教)

場 所 みやぎ東日本大震災津波伝承館 多目的スペース

主催者 宮城県復興支援・伝承課・東北大学災害科学国際研究所 **問合せ** TEL 022-752-2140

**市民公開講座 No.624 「液状化しない地
盤を見つけ出せー地震による地盤被害の
低減への新たな試みー」(オンライン)** **2月 6日(金)**
18:00▶19:15
無料 要申込

講 師 権永哲氏 (東北工業大学都市工学課程教授)

場 所 オンライン開講 (Zoom)

主催者 東北工業大学地域連携センター **問合せ** TEL 022-266-5222

**公開講座
「教育現場での生成 AI 利用の問題点
(特に著作権問題) について」** **2月 7日(土)**
9:00▶10:30
無料 要申込

講 師 清野正哉氏 (仙台大学教授) ※申込締切:1/31 (土)

場 所 仙台大学川平キャンパス **定員** 30名

主催者 仙台大学 **問合せ** kikou@sendai-u.ac.jp

**展示関連企画【講座】
「仙台誕生」からの災害とまちづくり** **2月 7日(土)**
13:30▶15:00
無料 要申込

講 師 佐藤大介氏 (東北大学災害科学国際研究所准教授) ※1/6 (火) 10:00～申込開始 (電話もしくはHP 参照)

場 所 せんだい3.11メモリアル交流館 **定員** 30名 (先着)

主催者 せんだい3.11メモリアル交流館 **問合せ** TEL 022-390-9022

**令和7年度禅を聞く会
第201回『絵解き「涅槃図」
ーインド仏典の物語からー』** **2月 9日(月)**
14:30▶16:30
有料 要申込

講 師 千葉公慈氏 (東北福祉大学学長)

場 所 仙台市太白区文化センター楽楽ホール

主催者 曹洞宗東北管区教化センター **問合せ** TEL 022-218-1381

参加体験記

「学び」イベント参加体験記

企画展 3.11 現場の事実×心の真実
生活の、あとと、先 ～「ごみ」と災害～
月 日:4月13日 (展示期間 2025年3月1日～7月31日)
場 所:せんだい3.11メモリアル交流館
主 催:せんだい3.11メモリアル交流館

普段の生活でも家庭などから排出されたごみの処理は自治体の重要な仕事の一つです。この企画展では災害には付き物のごみ、瓦礫など災害廃棄物の処理について東日本大震災時の仙台市の対応がパネル展示で紹介されています。

市では東日本大震災時、通常の年の7倍の量が一度に発生しました。震災ごみ6万トン、津波被災地のごみ266万トンの計272万トンです。種類別には瓦礫(可燃物)36万トン、瓦礫(不燃物)101万トン、津波堆積物135万となっています。宮城県の資料によれば、沿岸15市町の災害廃棄物の総量は約1,160万トンなので仙台市は約1/4を占めます。災害廃棄物処理の場所として津波被災地内の広大な公有地を確保できたことから、搬入から分別、保管、処理そして仮設の焼却炉での処理まで一貫して行う方式が採用できました。

廃棄物処理の担当部署は大半が市役所内他部署と兼務する職員や他都市からの応援職員となる構成で組織されました。市ではこの時の貴重な経験は伝承され、能登半島地震の際にも現地に応援職員を派遣しています。

市はゴミの処理に当たり、リサイクル率50%を目標にしたのですが、実績はそれを上回り72%になりました。さらに、ごみを分別処理されたものが私達の生活空間に84%戻されたことが示されています。例えば、コンクリート瓦礫78万トンは再生骨材78万トンとして再利用され、津波堆積物135万トンは盛土材130万トンとして活用されました。処理に要した期間は3年でした。

注目したいのは瓦礫量の予測値は実績値とは大きな差が無く、事前に精度良く予測できたことです。1978年の宮城県沖地震の経験をもとに、仙台市では2007年2月に震災廃棄物等対策実施要領を策定しており、これに基づいて予測値を算出したものでした。Web検索により市の災害廃棄物関係を調べてみると、震災時の処理対応やその結果を踏まえて2013年に実施要領の見直し・改定が行われたこと等詳しく知ることができます。

14年前の石巻で路上や公園に山積された廃棄物の光景を思い出します。これらも仙台市と同様に処理され、再利用されたことと思います。被災地域を早期に復旧復興するには迅速な災害廃棄物の撤去、処理が不可欠です。しかし瓦礫の中から行方不明者が発見される可能性もあるため慎重な作業が必要です。廃棄物集積所での車の盗難などにも注意を払い、処理するために所有者の確認と承諾を得ることが必要なごみもあるなど苦勞の絶えない仕事でもあります。普段、ごみ袋の行方は見えませんが、災害時に発生した大量のごみ処理も見えそうで見えない仕事ようです。この仕事を担っている人、市職員はもちろんですが、処理現場で働く関係企業の人達にも感謝したいと思います。

(仙台市 栗蔵)

その他のお便りと編集部からのコメントはWeb版でご覧いただけます。

「まなびのめ」配色法: 襲色目(かさねのいろめ)
第71号・冬/「枯色」(kare-iro)

読者の声

Voice Park 読者と編集部
のキャッチボール

第70号 稲作

「まなびのめ」第70号。いつものように楽しみながら手にしました。私が始めて手にした「まなびのめ」は第19号(2013年1月)でした。約12年間もの間、毎回手にする紙面を繰り返し読むことが何よりの楽しみでもあり、幅広い知識の発信源となっています。ずっしりと手元にある70冊もの「まなびのめ」は貴重な存在です。手元になかったNO.1～18号を何とか得て読みたいと思い、無理を承知で再送付をお願いしたところ、希望通り送って戴きました。70号すべてを手にして、12年以上もの長い間、「まなびのめ」から得た知識と情報の大きさに、ありがとうございますと言いたいと思います。年齢も80代となりました。しかし新しい知識を得ようとする小さな心意気は忘れないようにしています。今回の70号を再スタートに知識を得たいと思います。スタッフの皆様方、本当にありがとうございます。

(名取市・85歳)

編: 身に余るお褒めの言葉に胸が熱くなりました。いつも丁寧に読みくださり、心より御礼申しあげます。いくつになっても「知りたい」「学びたい」と思う気持ちは生きるエネルギーになりますね。これからも読者の皆様の知識力を刺激する内容を提供できるよう、魅力ある紙面づくりに、より一層励んでまいります。読んでくださる方あつての「まなびのめ」でございます。引き続き、ご愛読くださいますようお願い申しあげます。

学びについていろんな情報が記載されている『まなびのめ』のような物は他県でもあるのでしょうか? こんな情報誌を読めて宮城県民で良かったと思います。(柴田郡柴田町・58歳)

編: 他県の情報は未調査ですが、気になりますね。ご存じの方がいらっしゃいましたら、ぜひ情報をお寄せいただきたいです。「宮城県民でよかった」とのお言葉、励みになります。調べていると本当に興味深い研究をされている先生方が多くいらっしゃることも、宮城県民として誇らしいですね。

毎号楽しく拝読しております。学問は生活を支える重要な世界だと切に感じています。市民レベルで学術の分野に親しんで参りたいと考えています。貴誌が果たす役割はとても大きいと感じます。(利府町・64歳)

編: 励みになるお言葉を賜り感激しております。その時々 of 社会的な事象を、他のメディアとは少し異なった角度で取り上げ、新たな気づきを生み出していくことを心がけております。

今回も非常に勉強になりました。稲作への興味は常にあり、何かしら畑仕事や稲作を医療のリハビリテーションと結びつけられるのではと常々考えています。その考えの助けになる非常に良い内容でした。ありがとうございます。

(仙台市太白区・30歳)

編: 畑仕事とリハビリテーションのコラボ、とても興味深い視点ですね。実現することを楽しみにしております!

「学び」イベントではありませんが、仙台城登城ボランティアガイドのツアーに参加しました。急な坂をスタスタ走るように歩くガイドの方の健脚ぶりに驚きながら、遅れをとるまいと一生懸命ついて歩き、坂の途中途中で解説を聴きました。無料で当日参加できる貴重な機会となりました。

(仙台市太白区・60歳)

編: 仙台城登城ボランティアガイドのツアー参加体験記をシェアしてくださりありがとうございます。アクティブでかつ有意義な「学び」イベントですね

これからの主な「学び」イベント

詳細は Web 版に掲載しております。https://manabinome.com/

予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

2 FEB

ストーリーテリング講座 (全3回) **2月10日(火)・3月3日(水)・3月10日(火)**
10:00▶12:00
無料 要申込

講 師 平形ひろみ氏 (宮城学院女子大学非常勤講師) ※1/9 (金) 9:30～申込開始

場 所 太白区中央市民センター (3階中会議室) **定員** 30名 (先着)

主催者 仙台市図書館 **問合せ** TEL 022-304-2742

**公開講座
「命を守る方法とは? 一次救命処置」** **2月14日(土)**
9:00▶10:30
無料 要申込

講 師 福田伸雄氏 (仙台大学准教授) ※申込締切:2/7 (土)

場 所 仙台大学川平キャンパス **定員** 30名

主催者 仙台大学 **問合せ** kikou@sendai-u.ac.jp

**企画展「くらしの中の竹」講座①
「竹林の現状と竹の新たな活用可能性」** **2月14日(土)**
13:30▶15:00
無料(要券) 要申込

講 師 西城潔氏 (宮城教育大学教育学部教授) ※申込締切:2/4 (水) 必着

場 所 仙台市歴史民俗資料館 **定員** 20名

主催者 仙台市歴史民俗資料館 **問合せ** folkmuse@deluxe.ocn.ne.jp

**ストップ! DV・性暴力市民講座 2025
第2回「当事者の視点で考える
「トラウマインフォームド・ケア」** **2月14日(土)**
14:00▶16:00
無料 要申込

講 師 八幡真弓氏 (Praise the brave 代表、性暴力・DV被害者支援&当事者活動家)

場 所 エル・パーク仙台セミナーホール **定員** 80名 (先着)

主催者 仙台市・(公財) せんだい男女共同参画財団 **問合せ** TEL 022-268-8302

**後期基礎講座 第5回
「吉野作造の文章を読んでみよう」** **2月14日(土)**
14:00▶16:00
無料 要申込

講 師 氏家仁氏 (吉野作造記念館館長)

場 所 吉野作造記念館 **定員** 30名

主催者 吉野作造記念館 **問合せ** TEL 0229-23-7100

**大人の科学教室 第4回
「プログラミングでドローンを飛ばす」** **2月21日(土)**
10:00▶12:00
無料 要申込

※申込締切:2/3 (火)

場 所 HOKUSHU 仙台市科学館2階特別展示室 **定員** 12名 (中学生以上)

主催者 HOKUSHU 仙台市科学館 **問合せ** TEL 022-276-2201

せんだい文学塾 2月講座 **2月21日(土)**
16:00▶18:00
有料 要申込

講 師 三浦しをん氏 (直木賞作家)

場 所 仙台文学館 **定員** 72名

主催者 せんだい文学塾 **問合せ** sendaibungakujuku@gmail.com

**仙台市天文台×東北大学大学院理学研究科公開サイ
エンス講座 2025年度第2回「星のかけらを手に
してー隕石と小惑星に隠された生命誕生のヒント」** **2月22日(日)**
11:00▶12:30
無料 申込不要

講 師 古川善博氏 (東北大学大学院理学研究科地学専攻准教授) 当日9:00-インフォメーションにて整理券配布

場 所 仙台市天文台 加藤・小坂ホール **定員** 80名 (先着)

主催者 仙台市天文台、東北大学大学院理学研究科 **問合せ** TEL 022-391-1300

**令和7年度縄文の森講座第3回「アスファルト
に関連した土器が出土! 鳥海山麓の縄文遺跡
ー山形県遊佐町・杉沢C遺跡ー」(ハイブリッド)** **2月22日(日)**
13:30▶15:30
無料 要申込

講 師 小林圭一氏 (公財) 山形県縄文文化財センター 主任主幹 ※会場参加は申込不要。オンライン参加のみメールで要申込 (締切:2/15)

場 所 仙台市縄文の森広場体験活動室 **定員** 60名 (オンライン80名)

主催者 仙台市縄文の森広場 **問合せ** TEL 022-307-5665

**トークイベント
「榊山祐和学長が語る、中高生とともに
描いた石巻」** **2月28日(土)**
13:00▶14:30
無料(要券) 申込不要

講 師 榊山祐和氏 (武蔵野美術大学学長)

場 所 石巻市博物館 企画展示室

主催者 石巻市博物館・武蔵野美術大学 **問合せ** TEL 0225-98-4831